

あれから一年

大平小 五年 工藤 悠雅

四年生の秋ごろ、ぼくは、車とせっし、く事故にあいました。その事故のあとから、ぼくは、もう少し、自分の生活を落ち着かせなくちやい。と、思っ、今年過ごし、きました。た。でもそう思っ、た。周りの車の運転があぶないということに気付きました。

ぼくの家の前道路は、小学生もお年寄りもたくさん歩きます。でも、車はたくさん通るし、まっすぐな道路なので、スピードを出す車もいます。

ある日、友達と遊んで家に帰る時、後ろから来た車が、ものすごいスピードで、ぼくの横を走っ、て行きました。ぼくは、びっくりして、自転車ごと転んでしまいました。ひざから血が出たまま家に帰っ、て、お母さんに話しました。お母さんは、

「あの車、いつもスピード出して本当にあぶないよね。小さい子が歩いていて、小学

生が歩いていても、関係ないもんね。と、言いました。人が歩いていても、雨が降っていても、前から車が来ても、スピードを出す車です。突然、わき道から出たとき、お母さんの車とぶつかりそうになったこともありました。でも、その人は、ごめんねさいの  
おじぎもしませんでした。

ぼくは、その週末に、テニスの試合をひかえていました。その試合に向けて、練習をがんばってしました。お母さんは、血がだらだら

ら出るみざを手当てしながら、けがをして、試合に出られなくなると、べアや、チームにもわいわくががかるよ。

と、教えるくれました。ぼくは、「それはまずい」とだいたいぶあせりました。試合には出ました。足がいつものように動きませんでした。

ぼくは、去年の事故のことを反省して気を付けて自転車に乗っていました。ルールもきちんとしていました。でも、また、こわい

思いをしました。

ぼくは、考えました。交通安全とは、一人だけが守ればいいというものじゃなく、みんなを守るものなんだと思いました。

よくニュースで見る飲酒運転、お酒を飲んだら、運転はしろか、いけないのに、どうして運転をするのか。それで人が死んでいます。かわいそうです。事故を起こしても、その場所からにげる車もいます。

お母さんの車には、ドライブレコーダーがついています。もし事故にあつたときや、あり運転にあつたときに役立つそうです。車の運転手や歩行者、自転車に乗る人みんながおたがいに気をつけていけば、交通事故は少なくなつていくんじゃないかと、ぼくは思いました。

ぼくたち小学生も、広がつて歩いたりしないで、白線の内側を歩きます。横断歩道をわたるときは、左右きちんと確認します。自転車下車立ち乗りや片手運転などのきけん運転は

しないようにします。だから、運転手の皆さんも、横断歩道でわたる人がいたら、ゆずってください。せまい道路でも、広い道路でも、特に、冬道はすべるので、小学生も気をつけ歩きますが、冬の事故が一番多いのが入りっぱ事故だということですよ。

大人も子どもも、みんなが気を付けて、交通事故を減らしていきたいと思います。